

令和 6 年度 第 1 回

西宮市地域福祉計画策定委員会

会 議 録

□開催日時 令和 7 年 3 月 18 日 (火) 午後 2 時～

□開催場所 西宮市役所本庁舎 8 階 A813会議室

□出席者

委 員：竹端会長，田村副会長，勝木委員，北垣委員，北嶋委員，貴山委員
清水委員，角野委員，長谷川委員，林委員，平尾委員，丸尾委員
三池委員，村上委員，芳川委員

議事Ⅰ. 地域版ワークショップ開催報告

○会長

では議事に移りたいと思います。まず、議題1ですが、今回地域版ワークショップというのを開かせていただきました。その報告について、事務局から説明、資料説明をお願いします。

(事務局説明)

○会長

ありがとうございました。皆さんと思い出すためにも、これを何でやったかという話ですが、元々は昨年度に、この地域福祉計画策定委員の皆さんの間でも、認識を共通するためのワークショップを実施しました。そこで、お互い知らないことがあったよね、とか今度ふれぼのに行って飲もうかとか、そういったつながりが色々と出てきました。それも踏まえて、今度は地域住民の皆さんの話も聞きに行かなあかんよね、というところで、今回地域版ワークショップを高須地区と安井包括圏域の2つの地域でやったわけです。委員の皆様の中にも今回のこの2つのところで参加された方がいらっしゃるの、どんな感じだったのか、是非ともお声を聞かせていただきたいと思います。まずは委員、実際高須地区でやってみられて、どんなことをお感じになったか教えていただけますか。

○委員

よろしくお願いします。私が感じたことは、地域の中でやはり温度差があるなということです。子供さんを中心に話合いが進んだグループが、ほぼとは言いませんけど3分の2ぐらいあったのではないかなと。高齢者に関しての意見っていうのが、やはり少なかったかなと思いますし、高齢者に対して、これから先どうなるのかなという把握もしていただかないとまらないかなというふうに思いました。

○会長

なるほど。ただ、委員、例えば小学校、中学校のPTAの方も来られていたということですが、そうはいってもこれまであまり出会ってなかった人が出会ったことによって、普段聞かれない声も割と聞かれたという理解でいいですか。

○委員

そうですね。たくさんの団体の方が来てくださっていろんなお話になりましたので、とても参考になりました。地域の中を完全に把握するっていうことはね、全ての人がそんなふうにはならないので、一番気になるところのご意見がいっぱい出たかなと思います。これを中心に次の段階で、また少しずつパートパートで考えていくべきかなと思っております。

○会長

なるほど。実際、今回11月にやったことから、何か次に始まっている話はあるんですか。

○委員

今のところはないと思います。

○会長

じゃあ、これからですね。

○委員

はい。

○会長

ありがとうございます。他の委員で参加してくださった方にもお話を聞きたいのですが、委員、いかがでしたか。

○委員

ありがとうございます。僕は、高須の住民でもなく事業所があるわけでもなく行かせていただいたのですが、印象的だったのが、やはり高須の地域の中で比較的小学校とか中学校とかが近場にあるというところで、治安のよさ良い所の話が結構出ていたかなと思います。あとは、地域の高校ですかね。高校が何周年という中で、いろんな協力もしてきたと。お祭りをやる時に協力してきたという話も聞けて、なかなかうちの事業所があるところの地域では聞けないお話なのかなと、かなり活発に活動されているなというのが印象的でした。ありがとうございます。

○会長

ありがとうございます。委員も、もしよければお願いします。

○委員

私もこの地域は行ったことがなかったので、ワークショップの前に周りを見て歩く等してきました。子供さんが歩いて遊んでらっしゃる風景であったりとか広場であったりとか、すごく良い印象から入ったのですが、その中でも印象にありましたのは、私が入ったB班は高齢者についての話が多かったことです。数少ないグループだったのかもしれないんですけども。高齢者について、高齢者が元気だという言葉が何度も出てきました。ただ、元気だけでも行く行く高齢化率が上がってくるのは避けられない。では、今、何ができるか、というような展開で、グループの中で活発に話ができただかなと思います。子供についても話題として出てきたんですけども、高齢者がすごくいい資源になるのではないかと。ここをどうして生かそうか、という具体的などころまでは出てこなかったですけども。そして中間に入る年代層に関して、ここにも問題があるね、という話もありました。これについても突き詰めるところまではいかなかったのですが、何しかその場に居らせていただいて非常に居心地がよかったです。この居心地のよさっていうのが、事業所であったりいろんな職種の人の横のつながり、住民さんのつながり、そして次の回につなげるうえで大事だと感じました。機会があればまた、とても興味があるのでこの先も見てみたいなというふうに思いました。

○会長

何か皆さん、“団地ラブ”のような話が多かったね。いわゆる親世代、団塊の世代が歯抜けになったところに息子世代が家を買ってそこに戻ってくる、みたいな話が、結構たくさん出ていましたよね。ありがとうございました。

次、委員お願いします。

○委員

第一印象として、本当に色々な人たちが集まってちゃんと話ができるのかなってこういうことをやるというと思うのですが、やはり何か思っていることがそれぞれにあって、その思いが相手に伝わるから相手も何か聞き入ってしまう。そういう関係性の中で色々な話が出ていて、別に喧嘩しているグループはありませんでした。皆さん和気藹々と、そうやなそうやな、と言いながら。ただ、見ていると当たり前のように思えるんですが、人が集まって話し合ってガチャガチャしない、皆さんがおっしゃる「居心地よく」議論ができる場は、やはり当たり前じゃないなというのはすごく思っています。そのエネルギーを話し合う場がない、というのがまず一点あったところから話合いができた。そこから次どうしようかっていうところには、もう一段階か二段階ぐらいステップが必要だとは思いますが、けどそのエネルギーは何か感じましたよね。だから、お手伝いできることがあれば、またぜひぜひ続けてやっていきたいなというふうに思いました。

○会長

ありがとうございます。委員のところの法人の方が参加してくださったっていうので、もしよかったら。

○委員

高須には、6年前にうちの法人の保育園が建ったのですが、自治会等の地域の方とすごくつながりがあります。新しく入ってきたところにもかかわらず、お祭りをやるのでお店を出してみませんか、と向こうから声をかけていただいたりとか、地域の会議があるから参加しませんかって高須の森の園長に声をかけてくださり、だからうちの園長も法人の理事長もそこに会議があれば参加したりしています。何かそういうところって私達は入りにくいのかなと考えていたけれど、向こうから。

○会長

よそ者で、という意味やね。

○委員

そうです。西宮市内には何園かうちの園がありますけど、やはり地域を意識できている理由として、高須の“すぐ仲間に入れてくれる”という地域性はとても感じます。地域のお祭りも今は高須の職員が中心に、私も手伝いに行きますけど、ほかの西宮北口とかにいる職員は、そういうことが高須で行われているのをあまり知らないんですよ。なので、逆にそういうところの職員を、来年度は一緒に巻き込んでみるのはどうかと私は少し考えています。私

は手伝いに行ってみて、やはり初めは大変と思っていましたが、やっていくうちにその地域の一員になっていく。そういう体験を知らない若い子たちが同じ法人のつながりの中で空気感を感じれば、またちょっと自分ところの立ち位置っていうのが変わってくるのではないかなと思っているところです。

○会長

いい意味で、何か昭和が残っているというのか、そんな地域性がありますよね。

○委員

そうですね。

○会長

あの地域の真ん中にあるショッピングセンターも非常に、何ていうのか、昭和的な文房具屋さんが入っていたりするのですが、その人がめっちゃ良いことを言っていました。「うちらはらぼーとに勝てるはずがないので、らぼーとと戦うのではなくて、地域の中で愛される、要は共存共栄で子供たちにも当然注意したりするような、そういう商店街になっているんです。」というようなことを言っておられて、そこは高須ならではの、というところで、とても良いよね。

○委員

園にも色々な国籍の子供がいて、そういう何か違う、違うものを違うと感じさせない、何か取り込む地盤があるような気がします。

○会長

なるほど、ありがとうございます。

委員のところの社員さんも来られていたんですね。店長が。

○委員

武庫川店の店長が参加させていただいたんですけれども、コープこうべが地域の中で開いている会議の意見と重なることも多くて、同じような課題を抱えているなということを改めて感じたというふうに聞いています。先ほども話に出ていましたメルカードというショッピングセンターに、やはりすごく地域のことを思ってくださっている方もいらっしゃるので、地域の人と一緒に課題を解決できたらいいなということと、あと外国人の問題も我々の会議の中でもいろいろ出てきているので、そういうことも地域と一緒に解決できたらいいなということを感じたということでした。

○会長

ありがとうございます。

これ今回、オブザーバーの西宮市社会福祉協議会の方や、あるいは行政の方もいろいろ来てくださっているのでせっかくだからお声を聞きたいのですが、まずは社協さん、このワー

クショップをどんなふうに捉えられましたか。

○オブザーバー

私もファシリテーターとして参加させていただいたのですが、私のところはどっちかというと高齢者の問題も結構出ていました。自治会の方が、毎年役員が変わってなかなかひとり暮らしの問題について議論できてないという話をされていたのですが、ちょうど同じ班に地域包括支援センターの方がいらっしゃったんです。ただ、その方は包括の存在を知らなかったということで、このワークショップの場で新たに包括のことを知って、相談できる人が増えたという、そういうような新しいつながりが出来たことがすごくよかったかなと思っております。

また来年度になりますけど、高須地区の中に「つどい場まんなか」という常設の場ができるということで、子育て世代とか高齢者との交流っていうのがこれから求められていますが、特にやはり高齢化が進む高須ならではの問題ということで、高齢者が気軽に入れる場づくりの工夫が必要ではないか、という話がありました。皆さん本当に高齢化が進む高須地区の問題っていうのをしっかりと考えていらっしゃるなと感じました。

あとすごく印象に残っているのが、自治協の会長さんがおっしゃっていた地域の夏祭りの話です。平成21年から同じ地区にある県立西宮南高校に協力を求めて、今もこの高校生が夏祭りに参加されているという話から始まりまして、高須地区には幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校とあると。そこと連携しながら、子供たちと地域との関わりについて継続させることが大事だという話から、子供が変わる、親が変わる、そして高須に住みたくなるっていうそういうようなお話がありました。本当にこの自治協の会長さんのお話を聞いていましたら、そういう取組も含めいろんな次第についてやはりみんなで一緒に考える必要があるなという、そういうことが感じられました。

私ども社協といたしましても今回の出た色々な御意見につきまして、課題はたくさんあると思いますが、一つ一つこういった皆さんが集まる場で整理していきながら、一緒に考えていくことが大事だと思ひましたし、参加された皆さんも同じような認識でしたので、また次に開催するときはテーマを絞ったりするかも分かりませんが、このワークショップの取組が今後の高須での話合いの場にうまくつながればなと思っておる次第でございます。ありがとうございます。

○会長

ありがとうございます。もう一点だけ確認ですけど、これ例えば地区社協で話される話と今回出てくださったワークショップでの話って、どこが似ていてどこが違いましたか。

○オブザーバー

どこがというのはあれですけども、今回は行政も入った形でしたが、色々なパターンが考えられますので、またテーマに応じてどういう参加メンバーがいいかっていうのは考えていけないといけないかなと思っています。今回はね、特に大きな形のしつらえだったのでこういう形でいいと思いますけども、またこのテーマを絞ればまた参加者も変えていけないといけないかも分かりませんし、そこはこれからしっかりと地元の皆さんと一緒に話し合い考え

ていきたいと思っております。

○会長

ありがとうございます。行政と社協はたくさん出てくださって、全員に聞くと時間が足りないので選んで聞きますが、事務局は聞きたいのでお願いします。

○事務局

委員がおっしゃいましたこの手のお話っていうのは、ファシリテーターの職員がかなり苦労するだろうと思って参加をさせてもらったんですけども、まず圧倒的に参加者の熱量がすごかったというのに正直、驚いたんです。それと、それぞれの御立場の中からですね、自分の活動の強みと弱み、地域の強みと弱みをこれほど把握されてるのかっていうのは、すごく衝撃的でした。それぐらいそれぞれの活動から地域のことを見つめておられるんだというのは、すごく実感いたしました。

それと資料の3ページ目に、今後の課題についてどのように対応していくのかという前向きなお考えも出ていましたので、これは途切れずにこのまま進めていけばいいのかなというのをすごく痛感しました。また、このワークショップなどを用いて、できれば高須、安井に限らず全市で展開できながら、それぞれの地域の特性、強みと弱みを織り交ぜながら課題解決ができればいいのかなというふうに感じております。

以上です。

○会長

それ結構大事なポイントで、事務局にもう一言いただきたいんですが、今回実際高須でやられるのを見られて、これは高須と安井だけでなくほかでもやったほうがいいと思われた背景をもう少し教えてもらっていいですか。

○事務局

一つは、まず先ほど申しましたように、地域の活動者の方は、やはりそれぞれの活動を通じて地域の人または地域性を見ておられます。これはやはり活動されているがゆえに体験できることだと思うんです。そして、それぞれが課題として認識しておられることが、やはり色々な方と会うことによって解決できることっていうのは、結構多いと思うんです。それができる場っていうのが、やはりこういったワークショップの場であるということ。それと、やはり地域によって性格や背景が違い、それぞれの団体の背景が違いますので、それはある程度単位ごとにやらないとやはり解決できないのかな、行政がバツと全市的に網をかけるといような方法というのはあまり効果がないのかなというふうには感じました。

○会長

それこそ本当に、やはり高須で言われる議論と甲東園で言われる議論、それから山口で言われる話は、全く違うからというところもありますよね。ありがとうございます。

では、中心となって動いていただいた事務局も一言お願いします。

○事務局

私もグループの中に入って一緒にお話させていただきたかったなと思うぐらい、本当に熱量がすごくて、皆さん自分たちの強みがどんどん出てくるところがすばらしいなと思いました。私も全然気づいてなかったですけども、若い世代がもう一度帰ってくるんだよ、ここは住みやすいんだよというお話を聞いて、すみません、私が感じていたのとは逆だなと思ったので驚いたところです。でも、皆さんそのようにおっしゃっていて、つながりもすごく深く、例えば高齢の方が子供さんを注意するっていう、だんだん見られなくなっているようなそういった光景が、まだまだ高須の中にはあるんだということもお聞きしまして、やはりそこはすごく大事なことだなと思って、そういったいいところはどんどん皆さんに広げていくことも大事だと感じました。

それから、一方で、皆さんが集まる場所がない、高齢者を見守る場所がない等の課題が今回のワークショップの中でも出てきたところですので、ここからテーマを絞った形での小さなワークショップというような形で展開していけるのであれば、行政ももちろん力を貸して一緒にさせていただけたらなと思っております。

以上です。

○会長

ありがとうございます。今回、事務局も来てくださったので、もしよければお願いします。

○事務局

私はこのワークショップに、班に入るというより全体を俯瞰的に見て回る立ち位置で参加させていただきました。

一言で言うと、本当に有意義な取組だったなというふうに感じております。何が有意義かといいますと、当課では、自治会を中心とした地域活動の支援をさせていただいているのですが、自治会活動に課題が今山積しているというのはもう皆さん御承知かと思います。地域にある課題をどうやったら解決に導けるかということに、行政がしゃしゃり出て、これしよう、あれしようというのではなく、やはり地域の中から何ができるだろうとかどういうことがしたいのか、どういうことに困っていて行政が何を支援したらいいか、これを地域主体で導き出す。これがいいのではないかっていうのが、まさしくこの高須地区ワークショップで行われていたなと思います。

それともう一つよかったのは、私共はコミュニティ協会を支えている事務局でもあるので、コミュニティ協会でも地域をつなぐ取組として地域懇談会というのを開いているのですが、どうしても地域団体が集まる場になっているんですね。高須地区のワークショップでは、私共からすると異業種の福祉事業者や民間の商業施設など、地域からするとリソースになり得るあらゆる人たちが、本当に前向きに地域に向けて意見を交わす。そこで多分地域団体の中だけでは頭を抱えていたことが、もしかしたらできるんじゃないかとか、そういうところとつながれば違うやり方があるんだ、こういうものを皆さん話合いの中で感じ取っていたなという印象があります。なので、コミュニティ協会がやっている事業と立てつけが違うかもしれないけど、目的はやはり「地域づくり」というところについては共通だと思いますので、いい形でそれぞれの取組が地域の困り事、地域の課題解決に向けて前向きにつながる機会に

なればいいかなと。この辺は市の中でも横断的に連携協力しながら、今後各地域に広げるに当たっても、こういったところも踏まえながら考えてもいいかなと思いました。

以上です。

○会長

もう一点だけ伺いたいのですが、要は町内会、自治会の話と民生委員や地区社協がしている話は、特に高齢化、少子化してくると地域課題としてかなり重なってくる部分があるけども、これまで正直この地域福祉計画は、あくまでも民生委員や地区社協までの話であって、町内会、自治会に今回ある種踏み込んで話をするっていうような、もしかしたら地域コミュニティ推進課からすると越境されたと思われるかもしれないのですが、その辺りはどんなふうに今後連携していったらいいとお感じになったのか、もしよかったら教えてもらっていいですか。

○事務局

まず自治会支援をしていてよく言われるのは、自治会は何のためにあるのかと。目的が皆さん見えてなくなってしまうケースが多いですね。やはり地域で活動する意義が形骸化してしまっていたり、1年間運営することがゴールになってしまっていたりして、ここはいま一度、何のために皆さんがこういう苦勞をしないといけないのかとか、活動の先に地域づくり、地域づくりの先にやはり誰1人取り残されない地域、こういうものにつながっていくということを改めて実感をしていないかなと思います。ただ、これを行政がそうですよねって言ったら皆さん絶対反発されるので、先ほども言いましたように、今回の高須地区のワークショップのようなところに自治会が参加することで、恐らくそういう視点から自治会の役割っていうのをまた改めて実感されたのではないかなと思います。こういったワークショップを通して、皆さん自身がそれぞれの視点で気づいていくっていう形が、1地区でも多く広がればよいのではないかなと思いました。

○会長

なるほど、ありがとうございます。

今回のワークショップで一番笑顔がすてきだったのが事務局なので、一言いただいていいですか。

○事務局

私は、委員と同じ班で参加させていただいたんですけども、私もふだん西宮市がよりよくなるようにと思って一応仕事をしているつもりですが、高須地区の皆さんは比べ物にならないくらい熱い思いで地域のために動いてらっしゃる。それぞれやっていることとか考えていること・思いは違うんです、少しずつ違ってきているんですけども、ゴールは実は一緒の「地域づくり」というところなので、地域全体で福祉について話し合える場所があれば、本当にすごいパワーが生まれるのではないかなと思いました。

○会長

市役所でエクセルとかワードを見ているのとは全然違う感じでしょうか。

○事務局

全然違いますね。

○会長

なるほど、分かりました。ありがとうございます。

12月の「安井つながろう会」については、当日、企画からいろいろ関わってくださった社協さんに一言お願いしたいんですけども。

○オブザーバー

今回初めて安井地区で、「安井・大社・夙川 地域でつながろう会」というのを実施しました。第一印象としては、学生さんの参加も多かったということもあって、来られている方が本当に楽しくお話されている。今の笑顔の話じゃないんですけど、その顔がとても印象的でした。また、4ページ、参加者の感想のところにも書いていただいています、やはりそれぞれの団体の活動だけでは見えない、地域のためにこんなに思いをもってやってくれている方がいるということを確認できて心強かった、という御意見が、とても印象に残っています。

あと、顔の見える関係になれたことで、ちょっとした困り事を出し合って気軽に話し合える関係が少しできたかなと思っています。当日の話合いでも例えば施設の専門職の方は、最近人の募集をしても全然人が来ないという話をされた際に、グループにいた学生がちょっとしたことなんですけど、最近電話で申し込むなんて緊張してできないです、と意見を出されて、そもそもその内容の話じゃなくてツールの話だった、ということを知ることができたりとか、活動者の方で子ども食堂をされている方が2か所目の場所を探されていたところ、同じグループの方が自分のところの施設でよかったら使ってもらえるところがあるよ、というような話が実際にその場で出ていました。

そういう関係性ができたことが大きかったかなというのと、企画側としては、専門職のチームで企画ができたということが一つ今回新しいところです。これが社協だけということになると、社協がまた必死になっていろんなメンバーを集めるということになるのですが、今回幾つかの専門職でこの企画を考えていったことで、それぞれの専門職がこういう方に来てもらったらもっと当日の会が盛り上がるのではないかとということで、会の膨らみというか幅が広がったかなというふうに感じました。

○会長

ありがとうございます。

いろんな意見が今バツと出てきたのですが、今しゃべられた方でもしゃべられてない方でも今までの話を聞かれて思うことがあれば、もしよかったら御意見いただければと思います。

はい、どうぞ、委員。

○委員

ありがとうございます。私は、高須地区のすぐ上の鳴尾東地区でクリニックを開業しています。結構患者さんは高須の方が多いので、実はこのワークショップに来られた方が、高須について非常にアクティブで日が当たっているような印象を皆さんが言われるので、少し驚きました。高須は武庫川団地が主ですけども、平成の初めは2万5千人おられたのが、今は1万2千人弱ですからほぼ半減していますし、小学校も3校あったのが1校減っているんです。ですから、顕著な高齢化並びに少子化のエリアです。確かに、私の患者さんの中にもとてもアクティブに活動されている方はおられますが、その陰になっている全く孤立されている方が結構武庫川団地は多いんですよ。実際、武庫川団地の中に入られたら分かると思うのですが、夜とか昼間でも暗いですし人もいないし、特に高齢、中高年の男性はもう全く外と隔絶しているような方が多いです。ですから、このワークショップを契機にもう日の当たっているところはすごく分かったと思うので、逆に日の当たっていないところ、これこそアウトリーチのターゲットだと思うので、地元の住民の方のボトムアップがと言われるんですけどちょっと難しいと思うので、やはりその辺は行政の方にぜひともお願いしたい点だと思います。すみません、一点だけです。

○会長

他の皆さんはいかがでしょう。はい、どうぞ。

○委員

今、皆さんのお話を聞いていて、何かこういうアプローチだったら、高齢者が独居になっていたりとか、子供たちが親の介護で大変な思いをしていたりとか、色々な人たちが抱えている色々な悩みがですね、一人でしか解決できないと思っている人たちが、何かこういったつながりで1回生き返っていくというか。高須地区の話を聞いていたら、そこに解決する糸口があるかなと思って、興味津々で今お話を聞いていました。

我々のところの特別養護老人ホームなんかいうのは西宮の北部ですから、どうしても面積が広い割には住んでいる人が少ないと。また、高齢化率も非常に高くなっていて、次の家に行くのに時間がかかるし、色々な訪問をするのにも時間がかかるという中で、今こうやって2つの地域でいろいろやられているから、今後は北部でもぜひやっていただいて、その話合いの中から、また北部は北部でいろんな課題を抱えている中で、解決する一つの手立てが生まれてくるのかなと。今日聞いていてへえーと思って、いやいやなかなか勇気が湧いてくるなという、そんな取組だなと感じました。

○会長

ありがとうございます。他の皆さんいかがですか。

はい、委員。

○委員

今、北部の話を出していただいたので、それで思うところなんですけれども。私は参加させていただいて、私が普段担当している北部のこともよく聞いてくださったんですね、高須の皆さんが。所が変われば、というような話もそこでできたわけですけども、じゃあ自分のところに持ち帰って何ができるのかなっていうのをあれから考えてみたりもしています。高須でこんなことがあったよっていう話を、発信は私なりにはしてきたつもりなんですけども、やはり「へえー」で終わってしまいます。

今回は高須のほうできっかけをいただいた、いただいたというか高須でやったということなんですけども、いざ運営をしようと思うと今回も御尽力が色々なところであったと思います。会の進行なりファシリテートなり、それを北部のほう、北部じゃなくても他の地域でやっていくに当たっては、それなりの準備やかなり色々なパワーがいるのだろうなということで、実際に全市でできるのかな、というのは感じました。

○会長

なるほど、ありがとうございました。

すみません、今後どう進めていくのかっていうことに関してですが、社協の生活支援コーディネーターが来てくれているので、ワークショップに参加した感想プラス、例えば他の地区で進めるに当たって、これどういうふうにしてたらええんやろうか、というところ、教えていただいてもいいですか。

○オブザーバー

普段は全市域を担当していますので各エリアにそこまで行くことがないのですが、高須のワークショップには僕も参加させていただきまして、皆さんおっしゃっていたようにパワフルで元気な会だったなと思います。ただ、一方そこで見えてきたのは、今お話もあったように一部分であって、しんどい部分というものに目を向けていく時間はもっともっと必要だなと考えています。

今回、1回ワークショップをしましたけれども、それで終わりにならないようにしないといけないのと、あとこれを他の地区でもやっていくのかという問いに関して言うと、やはり個人的にも難しさを感じているところではあります。今回、市と社協がある程度、共催という形で地域に呼びかけをさせていただいたという経過があるんですけども、果たしてそのやり方がよかったのかとか、これまでは社協のほうでも地区ネットワーク会議とか地域の方々が主体となって話し合う場をつくってきたんですけども、その辺りの検証も改めてしていけないといけないと思っています。どういうふうにその話合いの場をつくっていくかというのは、逆に委員の皆様からも御意見をいただけたらうれしいなと思います。

○会長

ありがとうございます。

委員、どうぞ。

○委員

はい、ありがとうございます。

今、委員から言ってくださったことオブザーバーから言っていたこと、本当にそうだと思います。隣の東町なんですけども、よく高須を分析してくださっているなというふうに本当に驚きました。今一番問題なのは、男性のひとり暮らし、高齢者の問題がすごく多くて、民生委員が足りない区域を訪問しながらフォローしていくというのが、本当に大変な状況でございます。ある程度民生委員は頑張っていますし、元気で明るい高須は間違いないと思います。けども、民生委員とか社協が持っているエリアの中のことはあまり御存じないので、その辺はもっと理解してもらうことが必要かなと思います。昔、そんな福祉的なことはもう民生委員さんがすればええやんかって、ポンと離されることがあったので、そこからいけば多少なりとも関心を深めてきてくださっているんやろなとは思いますが、まだまだやっぱり地域の力は必要だと私は感じております。

○会長

これとても大事なポイントを皆さんおっしゃっていただいいて、物事には光もあれば影もあるし、それからその地域ごとに強みもあれば弱みもある。それから、その地域自体の中での機会もあれば興味もあるという中で、従来こういうワークショップって大体マイナスの話しか出ないところが多かったのが、今回プラスの話が出た、ということが一つ特徴的だったと思うんですね。

一方で、先ほどから委員や委員がおっしゃっておられるマイナスのところもあるねんで、というところ、つまりそれはアセスメントするときに、その両方ともをきちんと見た上で、その地区ごとのことをどう考えていけるのという基盤の話を今御議論いただいてきて、どっちもどっちですごく大事ななと思いました。

もともとこのようなワークショップを地域の中に展開していかなければいけないのだと、前の期の地域福祉計画策定委員会で声高に叫んでおられたのが副会長なので、副会長、実際に今回種をまいてみてやってみたことについて、皆さんの話を聞いてどう思ったか、お聞かせください。

○副会長

そんなに声、出ましたかね。

○会長

出ていました。ちゃんと地域に出ていかなあかん、ここだけでやってたらあかんっておっしゃっていましたよ。

○副会長

本当に参加したかったんですけども、当日参加できなくて残念でした。終わってからメールで、会長と委員からすごくよかったということの報告を聞いて、より参加したかったなというふうに思っていたのですが、改めて今日場で他に展開していく可能性を感じました。

一方で、先ほど言われたことの繰り返しにはなるんですけども、今回すごく力を入れて行政、社協、この計画の委員さんも入って実施して、ファシリテーターもある程度いたので、その辺りの空気感もつくれたとは思いますが、それを住民だけではできないですし、地域の方だけでもなかなか難しい。どこも今地域が困っているのに、順番をつけてやっていくのにもやはり限りが出てくるので、その中でどうすれば完璧な形ではなくてもどの地域でも展開できるのかって考えると、圧倒的に企画とファシリテーターの人材育成というのが、西宮市内で必要ではないかなと思っています。それを地域の中の市民団体の方、もしくは行政の若手職員とか色々な方々のファシリテーション力のようなものを上げていくという、もう一方の軸を、研修し育てていく必要が同時にあるのではないかなと思います。そうすることによって、進めながら地域を把握していく。行政に持って帰るとか市民活動に持って帰るっていうことが並行してできるので、そういう体制づくりもやはり必要だと思います。

もう一つ今回よかったのが、ベイコムさんの取材が来られていたと思うのですが、映像で残すことにチャレンジをして、これで僕見させてもらって雰囲気が出たんですね。一部で、地域でやっても分からないものを、やはり視覚的にどう伝えていくのかということ、西宮でこんなことをやっていますよ、他の地域でもやりませんかというようなことを訴えかけていく体制づくりも、もう一つ必要かなというふうに思っています。

最後に、やはりこれをやってどういう変化が出てきたのかっていうのを見ていく必要があって、大きな花が咲くかっていうとそうではないんですが、先ほど話に出ていたように法人の中で工夫をしていくとか、必ずナチュラルな変化が出ているはずなので、この変化を社協中心に地域の中でも、実はあれ以降にこんなことが起こっていてね、とか、こういう人とつながりができて、少しだけ芽が出てきましたよ、というものを逃がさないということがすごく大事なかなと思います。大きな変化は数年後でも、このワークショップで生まれた小さな変化を次につなげていくという計画が大事なかなというふうに思いました。

○会長

大事なことを全部まとめてくれたね。はい、大体まとめてくれたので、あと他に皆さん何か御意見とか御質問とかいかがでしょうか。

〔発言者なし〕

○会長

じゃあ、これ今後どうするねん、というところで、5ページの3番、令和7年度以降のワークショップの開催についてというところ、事務局から御説明をお願いします。

(事務局説明)

○会長

ありがとうございます。次年度以降ももう少しやりたいというのと、あとまた事務局から次の議題の3番で出てきますが、次年度が地域福祉計画の中間見直しの年なので、それをしながらになるのでそんなにたくさんはできないけれど、できれば2つ3つぐらいはやれたらいいなっていうのは事務局積もりであるのかどうか、その辺もしよかったらお聞かせください。

○事務局

そうですね。実際今回高須のワークショップ開催のときに、私も高須地域の関係者の方に御説明をさせていただきながら開催をさせていただいたんですけども、やはり事前に開催する地域を決めて実際どういった目的で開催するのか、参加いただく方にどういう話をするのか、そういったところをしっかりと説明をして開催する必要がありますので、ここでやりましょうと行ってすぐ開催できるものではないかなというのが正直な感想であります。

ですので、エリアとして、こういったワークショップ形式で開催することで今後の展開が見込めるところを考えながら、しっかりと地域への働きかけをしていった上で動けたらと思いますので、3か所、4か所は難しいかもしれないですが、実際どこかのエリアで開催につなげられればなというふうに考えております。

○会長

ありがとうございます。次年度の第1回が5月に開かれる予定なので、恐らくそのときに原案を出していただいて、おそらく皆さんで関われそうな人は行きましょうかという話になると思いますので、今回参加された方も参加されなかった方も、もしよかったら参加していただくという形でお願いできればと思います。

他にこの件についていかがでしょうか。大丈夫でしょうか。

〔発言者なし〕

議事Ⅱ. 重層的支援体制整備事業について

○会長

続きまして議事の2つ目、重層的支援体制整備事業について、事務局から御説明をお願いします。

(事務局説明)

○会長

ありがとうございます。まず、色々な言葉が出てきたので、確認がてら皆さんと見ていきたいのですが、6ページにある図、6ページに図が3つ出てきていますよね。相談支援体制と参加支援と地域づくり。最初、事務局が、今回のワークショップはこの3番の地域づくりに当たるところですよ、という話をしてくださいました。一方、さっきの高須地区のワークショップにおいては、委員からも実はまだひとり暮らし高齢者の話とかあんまり出てきてへんねん、という話が出てきたり、委員からも高須の人がうちのクリニック来てくれはっても、やっぱりしんどいところがあんねんで、という話が出てきていました。ということは、逆に言うと例えばこのワークショップで出てきている地域づくりの中で漏れている参加支援や相談支援も含めて一体的に考えるっていうのが、まず今回の重層的支援体制整備事業という理解で合っていますか、事務局。

○事務局

イメージとしては、そういうふうに作らせていただいています。図のところ、地域住民と書かれている左のところから矢印を入れさせていただいているのですが、地域課題の共有ということで、地域で課題を抱えている方の情報であったり課題であったりといったところを、地区ネットワーク会議、いわゆる地区社協圏域で話し合う場で共有していく。各関係者で情報を持ち寄ってっというところが、イメージとしては考えているところになります。

○会長

それから、続きまして7ページのこの図というのは、今、市役所内部で、例えばたらい回しになったりだとか押し付け合いになったり、断る相談になってしまっているという現状を解決するために、こういう包括化推進員や包括的支援担当者や包括的連携担当者を置くことによって、必ず断らない相談支援体制をつくりますという図である理解で大丈夫でしょうか。

○事務局

そうですね。やはり相談を受ける部署と支援を担当する部署っていうのが、窓口の担当と直接福祉部門での担当が異なる部分もありますので、各窓口等の気づきであったり、その気づいたところをしっかりと関係する部署につないでいく、というイメージで整理をしているところになります。

○会長

ありがとうございました。引き続き9ページの、社協さんが具体的にどんなふうに地域づくりに動いてくださるのか、というところの図ですが、まずこの地域ワーカー（広域担当）3名というのは、現在の第1層生活支援コーディネーターが3分割されるようなイメージでいいのですか。1層のコーディネーターが今1人やったけども、それを要は3人に分けて、より細かい地区ごとにちゃんと担当できるような人に分けるという。

○事務局

単純に第1層の生活支援コーディネーターを増やすというのではなく、重層的支援体制整備事業で新たに実施しないといけない事業として、参加支援事業やアウトリーチ等を通じた継続的支援事業といったものがあります。そういったものの役目も含めて、複数人で対応するというイメージです。

○会長

なるほど。ありがとうございます。その上で、この地域ワーカー（地区担当）14人というのは、ある種、従来の社協の地区担当でやってきたものプラス、今回アウトリーチや参加支援や地域づくりをやってくれはるということは、例えば先ほど委員がおっしゃっていたような、北部でやるときどうしたらいいんやろみたいなときに相談に乗ってくれはって、例えば次年度もし北部でワークショップができるとしたら、そこでコアとなって動きながら、市役所とかあるいは委員のような事業者の人とも一緒に相談しながら動いてくれるような人がこういう人に当たるという理解でいいでしょうか。

○事務局

そうですね。担当者としてのイメージではありますが、例えばアウトリーチ等事業につきましても、地区担当のワーカーが全て1人で情報を集めていくのではなくて、情報を集める体制をつくっていくところがポイントになってくるかなと思っていますので、そういったつながれる場というところでいくと、先ほどのお話にもあったワークショップのような場をつくっていくのが一つ、選択肢としては出てくるのかなと考えております。

○会長

ということで皆さん、何となく全体像の説明がありましたが、今の説明を聞かれてまだここのように分からへんとかこれ一体どうやねんとか、御意見や御質問はありますでしょうか。どなたでも。

はい、委員、お願いします。

○委員

今まで、様々な課題に対して色々なことをやっていく上で、こういった組織をつくったらスムーズに、こういう絵に描いたことが実行されていくのかということが非常にテーマだっ

たと思うので、それでもってこういう形で出てきているのだと思います。この地域ワーカーが3名とか14名とか数を充てられていたけど、包括化推進員というのは1人なんですか、何人なんですか。包括的支援担当者や連携担当者も。数が決まっているのですか。

○事務局

この包括化推進員というのは、生活支援課の中に2名配置しております。包括的支援担当者はですね、ここの一番右の庁内の個別支援に携わる課の主に係長ということで、普段の業務を持ちながらこういう連携の担当も担っているというところになります。これが庁内の連携の担当で、9ページに載っていますのは社協の連携体制というところなんです。そういう認識でお願いいたします。

○委員

はい。だから、西宮市が掲げている断らない相談支援というのがあるから、やっぱりこれが標榜されている以上は積極的に組織を動かして、それが推進されるような組織体制をさらに構築していただいたらありがたいと思います。

以上です。

○会長

何かうわさによると、それはもうある程度固まっているのですが、明日が人事の発表なのでまだ今日は言えないという、うわさを聞きました、はい。

他に皆さんいかがでしょうか。質問でも御意見でも。

はい、委員、お願いします。

○委員

すみません。ここに書いてあることではないのですが、この重層的支援体制整備事業の事業費の割合ですね、それについて伺いたいんです。令和5年度は確か移行事業のときで約1,000万の事業費だったのが、令和6年度は1,200万、令和7年度は3倍の3,800万ぐらいの事業費になっています。細かい話ですが、一気に3倍まで増えたというのは、どういうところにどういう形での事業費の分配になっているのか。なぜ3倍になったのか。ごめんなさい、ここに書いてあることと別にはなるのですが、少し伺いたくて。

○事務局

恐らく委員、市政ニュースを見られておっしゃっているのかなと思いますけども。令和5年度、6年度につきましては、重層的支援体制整備事業への移行準備事業というところで、1,200万円ほどの事業費になっております。ここが来年度から本格実施となり、国の補助も多くつくようになりますので、事業費が多く充てられて、主に9ページの社協の広域担当ワーカー等の人員配置を充実させることができます。ざっくりとした説明ですけども、そういう形になります。

以上です。

○会長

大丈夫でしょうか。他の委員の皆さん、御質問はいかがですか。

委員、お願いします。

○委員

前回の協議の中でも随分社協の責任が重いなということを感じて、今回その協議がこういう形で非常に明確に提示されたということで、非常に整理されて進んでいくのだなというふうに自覚をしております。

ただ、一つはですね、地域づくりに向けた支援体制のところで「地域づくりに向けた支援を推進するにあたり、社会福祉協議会に業務委託を行う」という話ですが、そりゃそうなのだけれども、受託事業者だというだけの問題では到底済まない。もちろんもう重々承知の上だと思いますが、社協とすればそれこそ50年以上の経過の中で、いわゆるアウトリーチとか参加支援、それが結局地域づくりに接合していくのだというようなことを、共生のまちづくりを模索しながら継続的に、決して十分ではないかもしれないけれども続けてきた経過があります。その先に今回の重層事業の本格実施に向けて、いわゆる地域ワーカーを配置して動き出すという流れの中で、ここの今の人たちは分かっていると思うのですが、やはり時間が経つと重層事業の地域づくりを受託しているだけの団体みたいになってしまうと、外部もそうやけど内部的にもね、そこはやっぱりあかんよなというふうに思っています。今後、地域福祉計画の策定や見直しをするときに、その辺のことをもっとちゃんと押さえておく必要があるのかなと思うんですね。少なくとも、共生のまちづくりに取り組んできた社協とより連携を深めて、その機能強化を進める文脈の中で今回の本格実施っていうのがあって、一部業務委託なのだということを社協側も行政側もはっきりしておく必要があるのではないかなと思います。やはり社協のほうも、多くのNPOの方々とか皆さんと連携しながら、それこそ地域ワーカーだけの問題じゃなく、参加支援も個別の相談支援も権利擁護支援も、ずっと営々と行ってきた経過もありますので、そこガッツリ連携するのだということで全体を描いていく必要がある。その責任をすごく感じているので、何かそういうことが重要なんじゃないかなというふうに思います。

だから、業務委託をしますと言うと何か片思いのような感じがしてしまうということと、社協とすれば、市からの業務委託を受けたワーカーということではなくて、その前に根本として社協のワーカーであるというのは絶対あるわけです。いわゆるこれからしようとしている共生のまちづくり、共生社会の実現というのは、住民と当事者がするわけであって、社協のワーカーというのはそのただ中であって、住民と当事者と一緒になり同志として共に共生のまちづくりに向かって立ち上がっていくという、そういう明確な役割が社協の中にはあります。その辺のことをやはりはっきりとさせておく必要があるかなと思っています。

○会長

ちょっとこれ委員がとても大事なことをおっしゃってくださったので幾つか確認したいのですが。まず1つ目、業務委託は契約行為上そうなのですが、何かここで表記するときに業務委託という書き方よりも、むしろ社協と行政が連携協働しながら地域ワーカーを配置し、要は住民主体のまちづくりを進めていくんだ、というような表記のほうが、実質これまでの歴史的経緯も含めて実態に合っているのではないかと、という理解で大丈夫ですか。

○委員

そうです。

○会長

まずその点がそうですよね。

○委員

実態は委託なんやけどね。ただ、その前に何か要るやろうっていう。

○会長

その背景にあるのは、それこそ青葉園ができて地区社協の中で重度の当事者の方も一緒にやってみたいな、50年間の西宮市社協が歩んできた歴史ですよ。この歴史も踏まえてこの委託の形があって、この形が先にあるのではなくて、西宮で実態として実際民生委員の方も含めてやってきた共生のまちづくりを、今回、国がこういう制度を持ってきたからこういう形で整理したんだ、その歴史的文脈も踏まえた上でちゃんと配置するんだ、のような位置づけを、例えば次の地域福祉計画の見直しの中で書き込むときにもちゃんと入れたほうがいいという、そういう御指摘という理解でよろしいですか。

○委員

そうですね。ずっと進めてきた、行政や民生委員さんも共にみんなで進めてきたことの機能強化の文脈の中で、きちっと捉える必要があるのではないかとということです。

○会長

それはもちろん地域福祉計画の、次の議論に出てくる計画の中間見直しで、恐らくこういうことについてちゃんと表記はせなあかんと思うのですが、逆に言うと、それこそ市社協の地域福祉推進計画の中でもちゃんとその辺は書いてくれていますよね。

○委員

そうですね。地域福祉推進計画に基づいて我々ずっとやっているわけですから、あるいは社協の各年度の事業計画ですね、そういうところにはきちんと。重層事業の本格実施を受けて新たに地域づくりをやりますという文脈ではなくて、あくまでもずっと今までやってきた部分の機能強化であるという文脈で、社協内部でもそれは徹底しております。

○会長

ありがとうございます。その辺ちょっと委員も一言もらっていいですか。

○委員

委員がおっしゃること、すごく大事だと思います。というのは、今はよくても、これが30年後、50年後、どうやってこの制度ができてきたのかなっていうつづりをつづったときにそういった記載がないと、ただ単に何か社協に委託で投げたみたいな文脈になってしまうのは避けなければいけないということだと思ふんですね。

もう一つが、やっぱりずっとやってきたことが、地域福祉ってそもそも何かよく分からない、福祉の業界の中でもよく分からないと言われ続けていた。一体何をやっているんだと言われていところで、混沌とした中でやってきた文脈の中で政策が入ってくるとこういうことが起こってしまう、というのは、一つの弊害だと思います。システムになること自体は普及していくからすごくいいのですが、地域性とか独自性というものがやっぱり削がれてしまう部分がある。そこをちゃんと守らなあかんっていうのが、委員の御意見だったのかなというふうに思っています。だから、これをどうやって継承していくのかということと、単に委託でやっているのではないということですね。そこをきちっと、社協の地域ワーカーも分かっておかないといけないし、行政と向き合うときにもそういう姿勢で向き合ってほしいというメッセージだと思ふので、ここはやはりきちんと酌んでいく必要があるし、残していく必要があるのではないかなというふうに思ふます。

○会長

ありがとうございます。この件でもこの件じゃなくても、皆さん御意見はいかがでしょうか。何か事務局、おっしゃりたいことがありそう。せつかくですので何でもどうぞ。

○事務局

今、委員がおっしゃったことは、おそらく半分ご自身におっしゃっているんだろうなというふうに思っております。といいますのは、西宮市の地域福祉計画の双子である社協の計画というのは連動しておりますので、やはり受け手側もそのメッセージをしっかりと書き置くべきだと思っております。当然、御指摘のありましたうちの地域福祉計画については、見直しのときにそういうことを記載しますが、双子である社協の計画においても、今、委員がおっしゃったことを全部しっかりと書き留めて連動することが大切かなという趣旨で発言させていただきました。

以上です。

○会長

ありがとうございます。他に重層事業についていかがでしょうか。はい、どうぞ。

○委員

相談支援について、少し確認というか認識の整理をさせていただけたらなと思って。断らない相談支援という、そもそもこの言葉が生まれてきた背景とか、あるいは断らない相談支援を展開していくための課題っていうのは、どのように考えてらっしゃるのかなっていうのをちょっとお聞きしたいなと、一緒にちょっと整理をさせていただけたらなと思うのですが、いかがでしょうか。

○会長

委員、多分よく御存知の上でそういう質問をされていると思うので、何でそういうことを質問したのか、もう少し背景を教えてもらっていいですか。

○委員

そうですね。この文面に書かれている介護、障害、子供、困窮、各分野の相談支援に係る事業を一体化していく。ここに、それぞれの相談現場で恐らく断っている、相談支援の何らかの課題があったのかなというのが一つ考えられて、僕の中ではあるんですね。今回、断らない相談支援というものを展開する中で、どういうふうな課題を事前に感じてらっしゃるかというのは、一度聞いておきたいなと思いました。

○会長

この件について、行政の方いかがでしょうか。
事務局、お願いします。

○事務局

まず、相談支援に特化して説明させていただきますと、やはり福祉の分野って高齢、障害、子供、それから生活困窮という分野ごとに、これまで制度や窓口を発展させてきたというところがあるかと思います。これが非常に効率的だったとは思いますが、最近複合多問題ですね、ごみ屋敷ですとか8050問題など、そういった様々な課題が顕著化してきまして、分野ごとの支援ではなかなか対応できなくなってきました。我々、生活支援課ですとか厚生課にもケースワーカーがいるのですが、制度が充実するとやはり縦割りという弊害を招いてしまっているところがあるかと思います。専門性が高いので、縦割り自体が駄目だということではないかと思いますが、この縦割りの弊害を取り除いていかなければならないということで、各支援者、福祉の支援者ってたくさんいらっしゃいますが、それを横につながっていきましよう。制度の狭間や複合多問題に対応していくために今回、包括化推進員などを置いて仕組み化していくということと、仕組みをつくっても中身が伴わないと意味がありませんので、制度から人を見るのではなく、きちんと課題解決ベースで相談支援をしていく中で、どう横とつながっていくかという体制を強化していくということが大事なのかなというふうに思っております。

以上です。

○委員

ありがとうございます。今、事務局からお話あったところは、僕、今はNPOの中で相談支援をしていますけど、従来であれば御相談に来られる方の声を聞く活動、それが相談っていうところで。そこに支援って直接支援するだけではなくて、話を聞きながらいろんな事象を整理していくことも役割なのかなと思ってやっています。うちも来年で30年になるのですがやはり年数が経っていく中で、その辺の法人としての思いがちゃんと継承できているのかなというふうに少し思っていたところです。

その相談支援を担っている役割の一部としては、やはり行政だけが抱える話ではなくて、我々、障害分野あるいは介護、困窮、子供の分野においても、分からんからやらへんとかそういうことでは多分、官民で一体的にやっていくということは難しいのかなと思うので、この辺り改めて我々も自覚していかなければならない、というようなところで、お話を聞けてよかったです。ありがとうございます。

○会長

これは事務局に確認ですが、庁内連携の担当者はこういうふうに配置するけれども、庁内だけで完結できないものについては、当然今委員が言われたように色々な事業者の方にも一緒にチームに入ってもらって、重層的支援会議のようなものを開いていくという、そういうイメージで大丈夫でしょうか。

○事務局

そうですね。包括化推進員が中心になりますけども、その支援のメンバーには民間の事業者さんも含めて、チーム支援を組んでいくということになるかと思います。

以上です。

○会長

ありがとうございます。他には。
どうぞどうぞ、はい。

○委員

皆様、こんにちは。いつもありがとうございます。事務局にお聞きしたいんですけども、私は社会福祉協議会にもう20年ぐらい前から縁がありました。夫が身体障害者になってね、市政ニュースで介護している人の旅行があったんですよ。少しでもその介護する立場の者の気持ちを和らげたいっていう、そういう市の福祉局からの優しい事業だったと思います。そこに参加してね、社会福祉協議会を知りました。

そこでね、市役所と社協は別々だっておっしゃったんですよ。もちろん仕事も違いますし、行政とまた福祉の団体ですから違うとは思いますが、今、事務局が社会福祉協議会と双子のような関係やからっておっしゃいましたので、やっていることは一緒ですよ。住民一人

一人の幸せのために、1人も置き去りにしない、SDGsのね、18項目に入ったらいいんじゃないかなと思うほど素晴らしいことをやっておられると思います。

ただ、私は先輩に市役所と社協は違うんやというのを聞いてそのまま二十何年来ましたので、それが双子のような関係というのが、どういうことなのかも少しわからないので、御説明をお願いします。

○事務局

行政が福祉を担うと言いますと、やはり制度的な問題が一つ大きくあります。例えば介護保険制度であったり障害福祉サービス制度だったり生活保護制度、そういったものの制度の中で市民の方、お困り事のある方を救う、支えていく、支援するというのが、一つベースにあります。社会福祉協議会は、その地域の中でお住まいになられている、人っていうのはやはりどこかの地域でお住まいになるわけですから、それぞれの地域の中で制度以外の部分でお困り事のあるものについて、どのような形で解決していくかという支援をするところでございます。

社会福祉協議会も社会福祉法に位置づけられているので、そういった意味では、準公的な機関だというふうに私は認識しておりますが、支援のアプローチの仕方が少し異なりますので。ただ、それぞれのお困りになっている方を支えるという役割ということでは、行政と社会福祉協議会、これは両輪でないとやはり一つの生活を支えていくっていうのは難しいことだと考えています。双子のようなという表現をしましたが、それは兄弟でもいいのかも分かりません。双子という言い方は私が今適当につくった表現なんですけども、そういうイメージを持って発言をさせていただきました。

以上です。

○会長

ありがとうございます。今回ね、今のこの図のところを事務局に見せてもらったんですけど、要は従来、この相談支援と参加支援とそれから地域づくりっていうのがバラバラでやられていたり重なるところがなかった部分が、逆に言ったら社協と行政等が分けながら、ある種相談支援のほうは行政が割と主になり、そして地域づくりのほうは社協が主になり、参加支援っていうので重なるというように、双子で役割分担しながらここをどう強化していくのかっていうのが、今回のこの重層的支援体制整備っていうところで言われているので。20年前に聞かれたときは違う話やったのが、今やっとくつついてきたという。そういう理解ですね。

○委員

最初言われたことって、そういうことだったのですね。

○会長

今日は20年ぶりにアップデートしましたね。

○委員

そないやって本当に、理屈じゃないですね。ありがとうございます。

○会長

ありがとうございます。他に皆さんいかがでしょうか、御質問や御意見とか。大体大丈夫でしょうか。

〔発言者なし〕

議事Ⅲ．第４期西宮市地域福祉計画中間見直しについて

○会長

続きまして、議事の３に行きたいと思います。第４期西宮市地域福祉計画の中間見直しについて、事務局から説明をお願いします。

（事務局説明）

○会長

ありがとうございました。今回ですが、要は地域福祉計画の中間見直しっていう年と、それから先ほど申し上げた重層的支援体制の整備の実施年度が重なっているので、恐らく第１回については具体的に中間見直しの検討項目を出すだけですが、第２回以降の中で具体的に実際やってみてどういう問題が生じているのか、というようなことを話していただきながら、何となく見ていると第２回から第３回の間ぐらいで地域版のワークショップが２か所ほどできたら、そのワークショップをやったことも中間見直しの中に書く、それも踏まえて検討できるのではないかなと思います。恐らくそう意味でいったら来年度４月以降めっちゃ大変になるんですけど、そこを重ねていくことによって恐らく中間見直しが多分意味のある、迫力のあるものになると思います。

そんなお心づもりをしておいていただければなと思うのですが、このスケジュールについて皆さんのほうで御意見とか御質問とかいかがでしょうか。大丈夫でしょうか。

〔発言者なし〕

○会長

先程もちらっと言いましたが、重層的支援体制整備が具体的に次年度から本格的に始まって、社協の体制も変わり行政の体制も変わったところで、恐らくこの地域福祉計画の策定委員会に求められるのは、その中間評価であったり、それが実際はどんなふうになっているのかについて御意見を伺って、よりよいものに変えていくための多分フィードバック機能だと思います。

来年度はそういう意味でいったら、もしかしたら第２回、第３回あるいは第４回も、その計画の策定案の提示、答申という内容以外にも、重層的支援体制はどうなっているのかみたいなことも別途議論をし続けながら、つまり私たちはあくまでも行政や社協がやろうとしている地域福祉計画や地域福祉推進計画の応援団として、逆に言うたらそれがどんなふうに行われているのかということを注視する。それやったら、先ほど出て来ている、９ページの社協さんの組織改革だとか６ページの話だとかっていうところが、具体的にどんなふうに進んでいるのかをその都度その都度で御報告いただいて、実際それがどうなっているのか。そういう意味でいったら、もしかしたら先ほど委員が単に委託を受けたわけではありませんとおっしゃったところが実際どうなっているのかについても、やはり社協の地域ワーカーの方から報告してもらうとい

うことも、もしかしたら2回目、3回目の委員会でしていただいたほうがいいのかもしれないと今聞いていて思いました。

そういう意味で言えば、まさに双子になっている計画がどうなっているのかを、ここできちんとチェックするっていうのが恐らくすごく大事なところになってくると思いますので、次年度少し忙しいですが、そんな感じで進めていけたらなというふうに思います。

はい。というわけで、まあまあええ時間になってきましたんで、今日の議事は以上です。

その他、連絡事項

○会長

事務局からその他、連絡事項をお願いできればと思います。

○事務局

本日は委員の皆様、それぞれの御立場から御意見や具体的な御提案をいただきまして、誠にありがとうございました。

本日いただきました御意見等につきましては、事務局で内容を踏まえまして取組を検討していきたいと思います。今後も引き続き御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

次回の委員会につきましては、先ほども日程の中でお伝えしましたが、5月19日の開催を予定しております。お忙しいところ恐れ入りますが、御出席のほどよろしくお願い申し上げます。

また、議事3で御報告させていただきましたように、7月末に委員の任期満了による一斉改選を行います。この委員会以降に、委員の皆様の所属団体への推薦依頼等の手続を進めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○会長

それでは、閉会に当たって副会長からまとめの話をしていただきたいと思います。

○副会長

皆さん、本日はどうもありがとうございました。会長のおかげで、この委員会も1時間半で濃厚な議論ができていたというふうに実感しております。本当にありがとうございます。

また、議論の中の一つでは、ワークショップの件が本年度はとても大きかったのかなというふうに思っています。これについては、事務局にも大変御負担があったと思いますし、やったことによっていい面と課題面の両方が出てきたかと思うんですが、そのワークショップ自体を社協だけとか行政だけではなくて、この委員会でもって共有できたことが非常に大きな一歩ではないかなというふうに思っています。来年度も続けていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

重層的支援体制整備事業についても、いよいよ実際に始まっていくので、これを現場とか市民にどう伝えていくのかということがすごく難しいなと。僕もこれ読んでいても難しいんですけど、それをやっていく現場の人たちに課長ないしこの委員が伝えていく、地区担当が伝えていく。伝え方が間違えると実態に伴わなくなってくるので、これがすごく重要なポイントになってくるのではないかなと思います。やり始めてからうまくいくことばかりではないですけども、それをしっかり見直して修正することも大事なことで、また引き続き皆さんどうぞよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

○ 会長

では、これで閉会します。ありがとうございました。

〔午後 3 時40分 閉会〕